

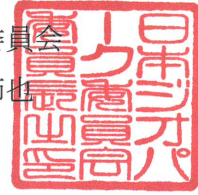
2025年8月18日

箱根ジオパーク推進協議会

会長 勝俣 浩行 様

日本ジオパーク委員会

委員長 中田 節也



第53回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2025年1月27日に行われた第53回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

【総評】

本ジオパークは、専門家を雇用することでスタッフが增強されたものの、ジオツーリズムの推進、パートナーシップの構築、ビジビリティの向上、テーマ設定の問題等、これまで長年指摘されてきた課題への対応が不十分である。これは運営方法や組織体制に問題があると考えられるため、抜本的な改革が必要である。これらの課題の解決には時間を要することが予想されるが、緊急性を認識し速やかに対応を検討・着手し、今後4年間で確実に改善を進めてほしい。

一方、小学校での手作り絵本の読み聞かせ活動、図書館におけるジオパーク普及啓発活動、登山道管理者やDMOと連携した登山道の整備、自然災害伝承碑の調査・登録による過去の自然災害情報の整理などは評価される。さらに、構成自治体の担当職員がJGN全国大会へ出席するなどネットワークへの積極的な参画を通じて、ジオパークへの理解が深まりはじめている。

【優れている点】

- ・登山道管理者や箱根DMO等が協力し、ボランティアとの登山道整備等の企画運営を行い、保全活動自体を魅力的なアクティビティへと発展させることに成功している。
- ・南足柄における絵本の読み聞かせ活動が行われ、非常に高い教育効果があった。
- ・南足柄市立図書館では司書による地域取材と文献調査により優れた展示、情報発信が行われている。ジオパークスタッフが選書した「ひとはこ図書館」は関心を引くものになっている。
- ・自然災害伝承碑の調査が地域住民やガイドと協力して行われ、過去の自然災害の情報が整理されると共に、忘れ去られていた伝承碑の発見にも繋がった。
- ・学術研究助成の対象となった芦ノ湖のプランクトン研究の成果が、芦ノ湖漁協が取り組む増殖事業に還元されている。

【今後の課題・改善すべき点】

I 緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね1年以内）

1. 管理運営の抜本的な改革を図ることが必要である。これまでの審査で繰り返し指摘された問題が現在もなお課題となっている。このように課題に対して着手しているものの、解決していない背景には、現在の体制や運営に問題があると考えられる。ジオパーク運営の改善と強化のために、複数自治体で構成する他のジオパークでの工夫なども参考にし、推進力のある運営体制を再構築することが急務である。
2. 部会体制については、活発な活動を展開する部会もあるが、一方で休眠状態の部会も存在しているため、実行力のある体制を構築しなければならない。
3. ジェンダーバランスを考慮した事務局の持続可能な体制とグローバル課題への対応を含んだ施策や事業を検討し、基本計画と行動計画を区別して作成してほしい。

II 中長期的に解決すべき事項

4. ジオツーリズムを推進するにあたり、来訪者の要望を反映した観光コンテンツの創出、観光防災への取り組み、DMO や事業者との連携に努めることが不可欠である。また、ジオパークの運営体制の中に観光やマーケティングの専門家を位置付け、参加させることが望まれる。その際、来訪者の社会経済属性分析などを通じて、地域経済への影響も考慮し、今後の計画に反映させることが望ましい。
5. 可視性の向上に向けた戦略を検討し、各拠点施設においては、箱根ジオパークのブランドやコンセプトを反映した展示更新を検討することが望ましい。
6. パートナーシップの制度設計と運用を検討し、その際、ステークホルダーと共にパートナーシップ制度の必要性について共有したうえで推進してほしい。
7. ジオパーク地域内の持続可能な開発、教育などにおいて、地質、自然・生態、有形・無形文化遺産のつながりがよく伝わるように戦略を立てる必要がある。その際、前回の指摘事項を踏まえ、本ジオパークのテーマの一つである「北と南をつなぐ自然のみち」について改めて検討してほしい。
8. 土産物品店での地質物品販売については、ジオパークの理念の共通理解を進めるなど、これまでの議論を継続し、販売縮小に向けた対策を進めてほしい。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上